

注意点1



右手

1弦下に正確に弦移動して
エグるようにアップせよ!

このメイン・フレーズは2弦と1弦を頻繁に行き来するため、アウトサイド・ピッキングを多用することになる(写真①~③)。1弦をアップで弾く時には、まず大前提としてピックが1弦をしっかり跳び越えていることが大切で、2弦から1弦への移動時には、弧を描くようなイメージで右手の手首を動かすと良いだろう。ここで指先だけを細かく動かそうとすると、ミス・ピッキングの原因になるので注意すること。続いて1弦をアップで弾く時には、弦をエグるような感覚で弾いてみてほしい。弧を描く弦移動→エグるようなピッキングという一連の動作を何度もくり返し練習して、右手に基本的な動きを叩き込もう!



アウトサイド・ピッキング。2弦をダウンで弾いた後……



弧を描くように1弦の下側に移動しよう。



1弦はエグるようなアップで弾く。

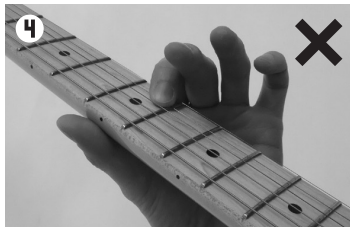
注意点2



左手

指先の繊細な動きで
1弦と2弦を弾き分けよう

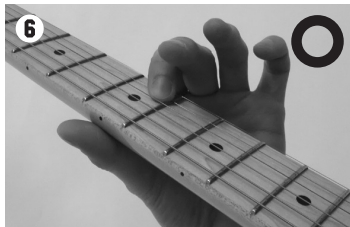
メイン・フレーズ1小節目4拍目ウラの2弦5フレット→1弦5フレットのフィンガリングには注意が必要だ。このような異弦同フレット【註】は、無駄の少ないフィンガリングを考えてジョイントで弾くことがあるが、ここでは1&2弦が同時に発音してサウンドが濁ってしまう恐れがあるので、必ず1音ずつ分けて弾こう(写真④~⑦)。実際には1弦に移動したと同時に、人差指の先端部分を浮かせて(第一関節を瞬時に曲げる)、2弦をミュートすると良い。この時、人差指が2弦から完全に離弦するとスムーズな運指にならないので、必ず少し触れているようにすること。指先のみを繊細にコントロールして演奏しよう。



2弦5fを人差指で押さえて……



ジョイントで1弦も押弦すると音が濁ってしまうので注意!



2弦5fを人差指で押したら……



人差指の先端部分を浮かせて、1弦のみを押さえる。

注意点3



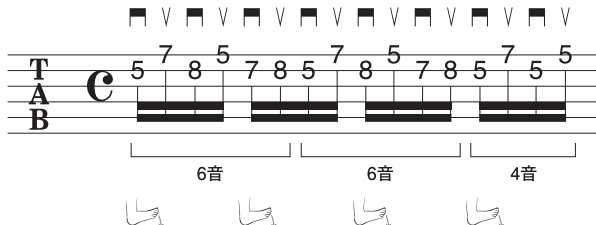
理論

音の区切りを理解して
リズムを正確に取るべし!

メイン・フレーズのような16分音符で音を詰め込んだフレーズを演奏する際には、事前にフレーズの区切りを理解しておくことが大切だ。メイン・フレーズ1~3小節目は、1小節が16分音符で“6音・6音・4音”という区切りになっているので頭に入れておこう(図1)。このような16分音符の6音区切りフレーズは、弾き慣れていないと、6音を意識し過ぎるあまり、リズムが6連符や3連符になってしまうことが多いので気をつけること。基本的には4分音符分の長さのタイミングで足踏みを入れて、常に16分音符を感じながらオルタネイトで弾き続けると良いだろう。

図1 メイン・フレーズの音の区切り

・1小節目



4分音符分の長さのタイミングで足踏みを入れて、リズムを正確に取ろう!

【異弦同フレット】異弦同フレットは、速弾きの大きな関門の1つだ。特にフィンガリングがポイントになることが多く、ミュートの難度が高い。だが、逆に左手のコントロール力を養うためには良い材料となるので、気合を入れて練習せよ!